



品川CS FUJIMIDAI

学校だより

品川区立富士見台中学校
令和8年度9月号
(令和8年9月1日)

<教育目標> 自己実現を可能にする生徒の育成

『開校記念日を考える』

校長 石黒 晋

9月に入り2学期がスタートしました。皆さんは、45日間の夏季休業を充実した日々として過ごすことができたでしょうか。

今年の夏、熊本県を中心とした地域で地震(令和8年熊本地震)が発生したり、千葉県内や石川県・富山県でレベル5の大雨特別警報が発令されたりして、多くの方々が被害に遭われました。先週もレベル4の大雨警報が区内にも発令され、自然の驚異を改めて感じる時でもありました。日々、日常何事も変わりなく生活していけることがどんなに尊く、ありがたいことかを実感する夏でもありました。いよいよ116日間(登校75～76日)の学校生活が始まりますが、皆さんはどんな気持ちでしょうか。「また、始まるな」と、憂鬱な気持ちにもなった人もいるかと思いますが、脳科学的には、「なんとかなる」と楽観的に考えていく方が、物事うまくいき、良い効果が生まれるそうです。2学期は、10月には9年修学旅行・富士見祭&合唱コンクール、11月には8年生職場体験、12月にはウェルビーイングの発表と行事等が目白押しですが、休日が多いのも特徴です。今月は、18日～23日までは連休でお休みの期間もあります。暦通りでは5連休ですが、本校は開校記念日があるため6連休となります。メリハリを自分でつけて、皆で乗り切っていきましょう。

さて、18日の開校記念日で73年目を迎える本校ですが、現在、在籍している生徒の皆さんは、3年前の開校70周年の時には本校に入学していませんでしたので、記念の日にあたり、どのようにして本校が開校したか、どんな地域なのか等々、少し歴史を振り返ってみたいと思います。振り返りながら、富士見台中の取り巻く環境や風土を感じてくれたら嬉しいです。

【1】開校(当時の住所は大井伊藤町5371)

1947年(昭和22年)に開校した伊藤中学校。学区内の旧国鉄大井工場跡地に社員アパートが建設され、生徒数が増加したため、1954年(昭和29年)4月、伊藤中学校の校舎の一部を借りて富士見台中学校が開校しました。同年9月、現在の場所に新校舎が完成し、伊藤中学校でお別れ式を行い、小雨の中、ブラスバンド部を先頭に生徒全員が富士見台中へ行進し移りました。以来、この日が開校記念日となりました。(30周年記念誌・PTA 誌ふじみだいより)

*伊藤中学校は、現在の伊藤学園です。また、旧国鉄大井工場跡地とは、大井町駅北側にある現JR東京総合車両センターです。今年出来た、大井町トラックスから見る事ができます。当時は伊藤中学校の学区域でした。

*富士見台中学校の敷地は、四分の三が個人の畑であり、四分の一が東宮侍従をしていた戸田康英氏の屋敷だったそうです。他にも三軒の家があったそうです。

*大井伊藤町は1964年(昭和39年)に現在の町名、西大井となりました。(品川区では64年1月～67年2月にかけて、全体の8割以上の町名を変更しています)。現在の西大井1丁目～5丁目は、大井森前町、大井原町、大井金子町、大井伊藤町、大井出石町、二葉町6、東大崎4という旧町名が分かれた地区。西大井6丁目の一部は、二葉1～6、東中延1～4という旧町名であり、古くは、荏原区(東京23区は1947年3月に22区、8月に1区が移行してきました。それまでは東京都は35の区がありました。35区時代の品川区は、品川区と荏原区に分かれていた)でした。

【2】校名の由来

伊藤中学校がすでに存在していたため、大井伊藤町にありながらその名をつけることができず、近くにあった富士見台遊園の名称から命名しました。(当時、伊藤小学校敷地内の都営小住宅移転に関して獲得した土地)。そもそも富士見台とは、その昔、伊藤博文公が旧山中町の邸宅からの散歩コースで富士山を展望したところから付けられました。(30周年記念誌より)

*富士見台の富をわかんむりにした理由は、上に点をつけてウかんむりにすると、これからおいに伸びていこうとする子どもたちを押さえつけてし



まうことになる。どこまでも伸びていってほしいという願望がこういう字となったのです。】(30周年記念誌より)

＊東京都にある「富士」と名の付く公立私立の幼・小・中・中等・高は、延べ28校。富士見台という校名は、公立小学校で3校、公立中学校は本校のみ。本校以外全ての学校が「富」です。私立幼稚園では1園、国立市に「富士見台」のつくところがあります。

【3】校章について (1954年・昭和29年4月1日制定)

霊峰富士が、学校から見えるので、富士山を図案化したものです。上の富士は生徒を、右の富士は保護者を、左の富士は教職員を意味し、互いに固く結び合う姿を表現しています。

＊生徒に図案を募集したが良いものが無く、当時の美術教諭が図案化したものが使われました。記念誌の記述から見て、昭和30年以降と思われます。(30周年記念誌より)

【4】校歌について (1963年・昭和38年3月12日制定)

開校当初、校歌は歴史と共に永久に残るため、出来栄がよくないものでは困るため、第二校歌を生徒・保護者・教職員で作成し、歌われていました。現在の校歌は、開校10周年の年に完成したようです。当時の教員・地域の方々が、まず本校の比較的近くに住んでおられた、近隣中学校の校歌(旧荏原三中、浜川中、旧大森七中)を作られている有名な作詞家：大木惇夫氏に依頼しました。大木氏は生徒の様子を見にわざわざ学校に来校し、詞を書き上げました。完成した詞をもって、当時新進気鋭の作曲家：団伊玖磨氏に依頼し作られました。(10周年記念誌より)

【5】施設について

開校当初は木造の校舎です。その後何期かに分け工事が進み、1972年(昭和47年)に現在の校舎(鉄筋)となり、以後、内装工事、耐震工事、改修工事等を経て、今の形になりました。体育館は、1978年(昭和53年)に完成しました。

＊令和7年4月より校庭側の門を開けていますが、過去の写真等から判断すると、25年間ほどの間は入学式・卒業式・運動会以外、校庭側の門は通常開けていなかったようです。

【6】卒業生数

令和7年度、第71回の卒業式を終えて、延べ11129名です。最多の卒業生は第8回の424名、最小の卒業生は第57回の44名。開校当初の卒業生は、毎年300～400名。その後、1967年(昭和42年)頃から1991年(平成3年)頃まで150名～200名となり、1996年(平成8年)～2006年(18年)頃は100名前後。2007年(平成19年)以降は80名ぐらいとなっています。今年20年以上ぶりに全校生徒260名以上、3学年とも3クラスとなりました。

【7】その他

創立50周年時(2003年・平成15年)に制服(標準服)が、詰襟(通称学ラン)・ジャンパースカートから男女ともにブレザーに変更されました。現在の標準服は、様々な組み合わせから選ぶことができます。

校旗の色からもわかるように、本校のスクールカラーは「緑色」です。開校当時から変わらないようですが、なぜ、「緑色」になったのかについての記述は残念ながらありません。体育のジャージ等も昔は、「緑色」でした。

部活動については、ここ10年ほどは大きな変動はありませんが、生徒数によって変容してきました。過去には柔道部、陸上部、卓球部、剣道部、演劇部、工作部、手芸部といった部活動等もありました。1973年(昭和48年)に男子バレーボール部が全国中学校バレーボール大会で準優勝しています。



【1】～【7】は、開校70周年時(令和5年学校だより9月号)に掲載した記事を追加除却訂正したものです。

栄誉をたたえて

【吹奏楽部】

令和8年度 第66回 東京都中学生吹奏楽コンクール

A組 銀賞